

第5回総務経済常任委員会会議記録

開 閉 会 日 時	令和4年8月9日（火曜）		午前 9時30分 開会	
	休 憩 9:41-9:44、9:59-10:00、10:57-11:10、11:13-11:14			
	午前11時33分 閉会			
	休憩時間：0時間18分		会議時間：1時間45分	
会議場所	役場3階委員会室			
出席委員 氏 名	委員長	鈴木 健充	委員	中村 和宏
	副委員長	中田智恵子	委員	広瀬 重雄
	委員	梶澤 幸治		
	委員	立川 美穂		議長 早苗 豊
説明員	政策推進課長	石田 哲	魅力創造課参事	小林 徳昭
	政策推進課長補佐	中田 雅彦	商工労政課長	仲野 裕司
	同政策調整係長	村上 佳子	商工労政課長補佐	中村 宗紀
参考人				
欠 席 委 員 氏 名	委員	寺町 平一		
事務局職員	係長	佐藤 史彦	主査	上田 瑞紀
『会議に付した事件と会議結果など』				
1 開 会				
<p style="margin-left: 40px;">委員長が開会を告げ、寺町平一委員の欠席の報告後、事務局から本日の委員会の日程を説明する。</p>				
2 議 件				
(1) 調査事項				
ア 新型コロナウイルス対策商工業支援事業について 資料1				
<ul style="list-style-type: none"> ・商工労政課長：資料（めむろプレミアム商品券販売事業の申込拡大）について、担当補佐から説明する。 ・商工労政課長補佐：資料説明（資料1）。商工会の要望も踏まえ、申込者すべてに対応するため、予備費充用で対応する。充当する北海道からの補助金については補正予算で対応予定。 ・委員長：質疑はないか？ ・立川委員：コロナの影響額は把握しているか。 ・商工労政課長：具体的な数字は把握していない。調査では多様な事業者に影響が出ている。全商連の調査でも、コロナ、物価高騰を背景とした影響があることが示されている。 ・立川委員：追加額だけで経済は回復できるのか。 				

- ・商工労政課長：額面の2億2千万円だけで回復するとは考えていない。他の継続した消費対策も合わせて回復させていきたい。
- ・委員長：他にないか？
- ・（質疑なし）
- ・委員長：以上で調査事項「ア」を終了する。

イ M a a S事業について

資料2

- ・政策推進課長：資料は担当係長から説明する旨を告げる。
- ・政策調整係長：資料説明。国土交通省の事業採択により9月補正予算を計上予定。
- ・委員長：質疑はないか？
- ・立川委員：新たな担い手の確保についてターゲットは想定しているか。
- ・政策調整係長：シニアワークセンターと協議中である。
- ・立川委員：ほかにも想定すべきではないか。
- ・政策調整係長：調整しやすいため団体としている。
- ・立川委員：実証はこれが最後か。まだ続けるのか。スケジュールは。
- ・政策調整係長：今回の実証後に次の展開を考える。
- ・立川委員：公共交通のマスタープランは策定しないのか。
- ・政策調整係長：来年度の策定を検討中。
- ・梶澤委員：これまでの実証運行の総括はしているか。
- ・政策調整係長：利用が伸び悩んでいる。運賃、利便性などサービスすべきポイントを確認しながら今後も進める。
- ・梶澤委員：他地域の需要把握もすべき。農村部のアンケートは実証運行前に行うのか。
- ・政策調整係長：アンケートは農村部全域において、実証運行期間中に行う。回答者のイメージのしやすさを考慮したものである。
- ・梶澤委員：区域については上美生と市街地間のみの想定か。
- ・政策調整係長：河北、川東方面も予定している。
- ・梶澤委員：シニアワークセンターに担っていただく場合の研修等はどうするか。
- ・政策調整係長：協議会で講習費用を支出する考え。
- ・委員長：他にないか？
- ・（質疑なし）
- ・委員長：調査事項「イ」を終了する。

ウ 新嵐山スカイパークについて

資料3

- ・魅力創造課参事：資料を説明する。指定管理委託への影響軽減を図るため、コロナの不可抗力で減収したものについて支援を行う。決算をもって支援を判断した。
- ・委員長：質疑はないか？
- ・立川委員：財源は。
- ・魅力創造課参事：コロナ交付金を活用したい。
- ・立川委員：影響を受けた事業者には国などから支援金が交付されるが、対応していな

いか。

- ・魅力創造課参事：公的支援も受けながら進めているところ。
- ・中田委員：令和3年度の赤字との差額はどのように考えているか。
- ・魅力創造課参事：町の支援金との差額については、会社が解消に向けた取り組みを進めていくことになる。支出面の圧縮プロジェクトも進めていると聞いている。収入確保、支出削減の自助努力を進めていくと伺っている。
- ・中田委員：来年度に赤字となった場合も支援金という考え方になるのか。
- ・魅力創造課参事：今回は新型コロナへの対応であり、赤字補てんではない。今後も赤字補てんの考え方はもっていない。ただし、委託料の額の変更が必要になった場合は協議のうえ対応していく。
- ・梶澤委員：今回はコロナ交付金の活用であるが、交付金、一般財源、会社自らの借金などから今回の手法を選択した考え方は。
- ・魅力創造課参事：コロナ禍は継続中であり、公的支援も受けてきた。新型コロナの融資も活用して対応しているところ。
- ・梶澤委員：町からはコロナによる赤字と説明があるところ。企業努力の上で支援すべきもの。人件費が膨らんでいる状況では、経営努力に値しないものと考えられる。経費削減プロジェクトの内容は町民の理解も得られるものか。
- ・魅力創造課参事：企業努力としては、室内で長時間のサービス提供ができない状況が続いているため、キャンプなどで収益を上げていると評価している。働き方改革の一環で正社員化を進めたことが人件費上昇要因。勤怠管理システム導入、総合カウンターなどで削減努力を行っている。不足する人員についてもやりくりで対応している。公共施設としての公園管理も行っており、一定程度の人件費が生じることがやむ負えない。町としても削減に向けた指導を行っている。
- ・梶澤委員：来年度の赤字に対する考え方、指定管理料の積算見直しもあると思うが、経費節減を会社にも指導していただきたい。支援後の残りの赤字は。
- ・魅力創造課参事：支援金との差額は自助努力として会社が確保する。
- ・梶澤委員：コロナによる影響について、町民の利用を考慮すると、コロナのみの影響とは思えない。困った時こそ町民の利用が必要。対策は考えているか。
- ・魅力創造課参事：町民利用の対策については、広報誌に掲載したところ。今後もPRしていく考えと聞いている。町内の活動団体への情報提供など地道に続けている。現地でのインタビューなどでニーズ把握なども行っている。
- ・広瀬委員：会社の経営状況の報告は受けている。今回は赤字への支援。数字をどうするかということが提案内容であるが、費用対効果の観点からも見ていく必要がある。指定管理料との差額を支援するという考えであるが、来年劇的に改善するとは思えない。来年度以降の指定管理料の積算の見直しなどは検討していくのか。
- ・魅力創造課参事：コロナの影響による利用自粛という分析をしている。各種大会の中止などで団体利用が激減している。行動変容など先細り感も否めず、考え方を見直す必要はあると考えている。今後も指定管理委託料とリスク分担の考え方に基づき設計変更を行うか考えていきたい。
- ・広瀬委員：ウィズコロナを考える必要がある。宿泊制限もなく、伸び始めていると思

う。町長の2期目にあたる見直しの考えも踏まえているか。

- ・魅力創造課参事：活用計画の変更などについて、点検を進めているところ。
- ・広瀬委員：指定管理者との協議も重要だが、町民の意見を聴くことも必要。利用者あつてのサービス業という視点が足りないとの指摘が各方面からあつた。計画見直しにあつての考え方を伺う。
- ・魅力創造課参事：町原案を示す形でこれまでは進めてきたが、見直しにおいては会議体を設置して進める考え。
- ・立川委員：町民の生活も厳しい。町独自の支援を行う必要がある場合も想定される。嵐山に交付金を投入することでしわ寄せはないか。
- ・政策推進課長：コロナ対策は交付金の有無にかかわらず検討し実施してきたもの。今回の事業後に必要となった場合は、これまで同様に一般財源を充当していく。
- ・立川委員：客単価を増やす取り組みが必要。会社の取り組みをどう評価しているか。
- ・魅力創造課参事：指定管理者との協議では、無料アクティビティを提供し、そこから有料につなげていくという戦略としている。室内で長時間のサービスではないものなど、コロナの影響を受けにくいサービス提供に取り組むことを協議している。宿泊客は昨年比大幅増となっているとの報告を受けているところ。
- ・中村委員：行動制限もない中、ターゲットを絞っていく戦略が必要。観光施設として総合的な戦略をどのように考えているか。
- ・魅力創造課参事：活用計画でビジョンを設定し、指定管理者が実現に向けた運営をしている。環境を重視した運営としたことが評価を得ているものと考えている。ニーズの変化に即対応できるように進めている。
- ・中田委員：コロナ交付金は他にも使いようがあるが、指定管理者だけに支援するものである。指定管理料で賄えない理由、指定管理者の努力が町民に見えているか。
- ・魅力創造課参事：コロナ禍で予定した収入が得られなかったもの。
- ・政策推進課長：利用料金制度を導入している指定管理委託は新嵐山のみ。影響を一番受けやすく、町としての支援は妥当と考えている。今回の支援で他の対策がおろそかになることはない。
- ・魅力創造課参事：今回は重大事案として考えるよう伝えているところ。利用客に気持ちよく過ごしていただけるよう運営してもらおう。
- ・中田委員：令和4年度予算の見通しでも赤字となる部分がある。解消に向かって進められているのか。
- ・魅力創造課参事：見通しとしては、宿泊・宴会部門のコロナ禍前までの急激な回復は望めない。地道な収益確保を進めながら累積赤字を減らしていくとの考えを伺っている。
- ・梶澤委員：赤字への財政支援にあつて、経営責任ということは町では考えているか。
- ・魅力創造課参事：100%出資であり、町としての責任も感じているところ。事の重大さは指定管理者にも伝えているところ。
- ・委員長：他にないか？
- ・(質疑なし)

- ・委員長：以上で調査事項「ウ」を終了する。

- ・委員長：自由討議についてお諮りする。調査事項「ア」についていかがか？
- ・（意見なし）
- ・委員長：自由討議は行わない。

- ・委員長：調査事項「イ」についていかがか？
- ・（意見なし）
- ・委員長：自由討議は行わない。

- ・委員長：調査事項「ウ」についていかがか？
- ・梶澤委員：財政支援にあたって調査してきたところ。抽出事業の一つとしている。論点を整理してきたが、議会としての政策論争は必要ではないか。活用計画をテーマに進めてはどうか。
- ・立川委員：政策討論会をすべき。3セクの調査について研修機会を設けてほしい。
- ・中田委員：今回の調査では町としての計画見直しの考え、指定管理者の自助努力などが示された。提言等があれば政策討論会も必要だが、まだそこまでではない。非公式な議員間の意見交換などで十分ではないか。
- ・広瀬委員：委員会の主要事業としている。町もこれから検討していく中で、政策討論会の手法等は一考の余地がある。開催の目的が明確ではない現時点ではいかがなものか。議員としては町への質疑をしなければならないが、民間会社の経営状況に踏み込みたくなっていると感じる。会社の外部チェックが十分に機能していないのではないかという疑問もあるところ。3セクという形態のあり方がそのような見方になるという側面もある。
- ・中村委員：今まで以上にチェックは必要になる。否定するものではないが、政策討論会までは現時点で必要ないと感じる。
- ・梶澤委員：委員会として抽出事業を決定している。他の委員会からの視点も必要である。今すぐとは言わないが、町民の関心事項でもあり、提言をまとめていく必要はあると考える。
- ・立川委員：今回の件については委員会としての意思表示も必要である。意見の中から提言すればいい。
- ・委員長：政策討論会について意見が分かれているところであるが、開催にあたっては委員会としての考え方を持つべきである。全員の合意をもって進めるべきものであり、まずは委員会の整理が先決である。抽出事業として嵐山が良い方向に進むよう委員会としても調査を継続し、必要に応じた政策討論は検討する。
(異議なし)
- ・委員長：以上で自由討議を終了する。

(1) 次回委員会の開催日程について
正副委員長一任

(2) その他

- ・委員長：「その他」で各委員からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：議長からないか？
- ・(なし)
- ・委員長：事務局からないか？
- ・(なし)

以上で総務経済常任委員会を終了する。

傍聴者数	一般者	0名	報道関係者	0名	議員	1名	合計	1名
------	-----	----	-------	----	----	----	----	----

令和4年8月9日

総務経済常任委員会委員長 鈴木健充